島原半島ジオパークにおける地質遺産の保全と学術成果のアウトリーチ

The preservation of geological sites and educational Outreach in the the Unzen Volcanic Area Geopark

長井 大輔 [1]
Daisuke Nagai[1]

[1] 九大・地震火山センター
[1] SEVO, Kyushu Univ.

http://www.sevo.kyushu-u.ac.jp/

島原半島では、2008 年に島原半島ジオパーク推進連絡協議会が発足し、昨年 10 月 20 日、日本ジオパークの第 1 号に認定される。現在、世界ジオパーク認定に向けての準備が行われている。九大地震火山センターでは、地元に即した研究施設として研究成果を周知し、地球科学の普及や教育に役立てること、さらにそこから地域住民の防災意識の向上につなげていくことを目標にして、島原半島ジオパークの活動を支援している。2008 年には、ガイド養成講座のはじまり、11 月には島原半島の地質遺産をめぐる巡検の案内者をつとめた。参加者からは地質の説明に強い関心が示された。また、1 回話を聞くだけでは不十分であるとの声も聞かれた。

島原半島には火山活動を記録する多数の地質露頭がある。しかし、これらの大半は、新鮮でもろい火山噴出物である。そのため、雨による浸食、夏には部分的に植生に覆われるなどの問題がある。一方、寒冷地とちがって雪に覆われることはなく、一年を通じて観察できる利点もある。冬は植生が少ないので、露頭が見やすく、見所が増えるという季節性もある。ガイドはこのような季節の変化も知っておく必要がある。2008 年 12 月、ガイドに呼びかけ、露頭のクリーニング活動と見所の確認のための集いを行った。この集まりでは、講座でおとずれた同じ場所を再度説明し、さらに講座では説明できなかった新しい場所も訪れた。参加者からは、前回聞けなかった詳しい内容までの質問が寄せられた。また、ことなる分野（植生の専門家）を交えることで多角的な情報も交換できた。参加者はこの活動を通じて、地質遺産の保全の重要性を認識できた。同様な定期的に活動を行い、学習会と合わせてクリーニング作業など、露頭の保全をしていくことが、当面最善の方法であるかもしれない。島原半島には多くの自然を紹介する施設（博物館や情報サイト）がある。これらを活用して 1 つのテーマを学習し、それに関連したものを実際に現場で歩いたり、手でふれながら、実スケールで体感する。このような試みができれば、さらに内容深いジオツアーが実現できると期待される。教育普及の意味も含めて、島原半島におけるジオパークの地域貢献の可能性は高い。